

ヒパクシャ国際署名への協力を、登世岡さん（左から2人目）に要請する関係者たち



「集めるほど説得力」

核兵器の完全廃絶を求めて日本被団協（東京）が呼び掛ける「ヒパクシャ国際署名」が、開始からもうすぐ3年を迎える。昨年9月時点で計830万人分が集まった。それ以降に回収した分は今月末時点の数字として集計し、用紙の現物を4月29日から米国ニューヨークの国連本部で始まる核拡散防止条約（NPT）準備委員会に持ち込む。「一筆でも多く」。裾野を広げる苦心と努力が続く。（金崎由美）

「被爆体験を伝える活動に尽力してきた方として、さらに一歩、署名を広めるための協力をお願いしたい」。広島県被団協（坪井直理理事長）の算牧智之理事長代行（77）、東京の非政府組織（NGO）ピースボートの川崎哲夫代表（89）が、安楽寺（広島市東区）に前住する登世岡浩治さん（89）を訪ね、語り掛けた。

登世岡さんは「被爆し弟をなくした。高齢だが、できるだけ協力したい」と応じた。後日、100枚余りの署名用紙と返信用封筒を周囲に配布。少しずつ手元に集まり始めているという。

一行は浄土真宗本願寺派の安楽寺のほか、立止成会（広島市東区）や浄土宗妙慶院（中区）も訪れた。提案した堺市の浄土宗の僧侶、松本英彦さん（56）は「多く集めるのは、米国の核抑止力を重んじる日本政府に対して『政策変更』を促すのが、署名の意義」という説得力を持つ」と署名の意義を強調する。

「被爆者が生きていくための『断絶』へ、決意を新たにす。」

ヒパクシャ国際署名

裾野広げる努力続く



市民グループ「シュモア」に学ぶ会」代表の西村宏子さん（61）は、区内の案内で、シュモアハウスを見学した。51年に集会所として建てられ、7年前に原爆資料館の付属展示施設として再オープンしました。家を建てた人たちの寄

復興支援の米国人がいた



フロイド・シュモアさん



集会所として建てられ、現在一般公開されている「シュモアハウス」

家を建てる際に、くぎなどを打ち付けたハンマーは、建築に参加した男性がシュモアさんから譲り受け、手元に大切に持っていた物です。「広島復興を助けた」という熱意と信念を伝えているように感じました。

米国中西部のカンザス州の農場で生まれたシュモアさんは、幼い頃から、暴力や戦争はいけないことを教えられて育ちました。広島のことを大事にしたいと思っています。

爆撃は、46年に発行された米国作家ジョン・ハーシーのルポ「ヒロシマ」を通じて知ります。「原爆投下は大きな罪であり、一人の人間として謝らないといけない」。そう考えたシュモアさんは「行動に移すことが大切だ」と53歳になる48年に初めて来日。翌年、再び広島を訪れ仲間と一緒に南区皆美町に2棟の木造住宅を建てました。費用は米国で寄付金を募り4300ドルを集めたそうです。

家を建てることでお互いの理解を深め、平和をつくり出そうとしたのでしよう。その後53年まで広島を何回か訪れ、江波地区や牛田東（東区）などに計15棟（21戸）を建てました。



「行動大事」募金集め21戸建設

巡る

被爆地蔵人と同じ「痛み」

広島市安芸区のアマチュア画家藤登弘郎さん（83）が、市内38の寺に残る被爆地蔵を水彩画の具で描いた画集「ヒロシマ被爆地蔵」＝写真＝を自費出版した。



広島市藤登さん 水彩画集出版

B5判、100面で500部を刷った。爆風で首がなくなったり、顔が分からなくなるほど傷んだ地蔵の絵約70点を収める。

「人間と同じような姿に涙が出た」と振り返る藤登さん。市立学校の平和教育に役立ててもらおうと、市教委に226冊を寄贈した。市教委指導第1課は「フィールドワークなどの教材として活用したい」としている。

藤登さんは兄が被爆者でこれまでも被爆建物や被爆樹木などを画集にしている。（増田咲子）



宛名の住所に「シュモア住宅」と書かれた封筒



「広島の家」で暮らした思い出を語る三恵子さんと豊子さん

元住人の姉妹

町（現中区）の祖父父母宅に引越した原野家は、原爆で住む家を失いました。そして、牧師だった父、進さんが入院していた市内の病院に、シュモアさんがボランティアで訪れたことがきっかけで、入居が決まりました。

「父は、毎週日曜に近所の子どもたちを家に招いて聖書物語を読んだり、賛美歌を歌ったりした」と三恵子さん。夏休みには、一生懸命作業をするシュモアさんの姿を見ました。「いつも仲間の中心にいて、信念を持っている人に見えた」と言います。進さんは「シュモアさんの思いを絶対残さんといけん」と、手紙の差出人住所には必ず「シュモア住宅」と書いたそうです。

「シュモアさんのおうちは戦後の大きなプレゼント。背後には米国の方々の募金があり、知らない人に助けられて今がある」と三恵さんは力を込めます。この日、宛名や差出人住所に「シュモア住宅」と書かれた封筒ら点を原爆資料館に寄贈しました。

私たちが
担当しました



次回は4月16日に掲載します。取材を通して中国新聞ジュニアライターが感じたことをヒロシマ平和メディアセンターのウェブサイトで見ることができます。

学ぶ!楽しむ! おすすめ注目講座 中国新聞文化センター アルパーク教室

広島市西区井口明神1丁目16-1 アルパーク天満屋3階 ☎082(501)1119 受付時間...10:00~18:30(日曜15:00まで) 祝日は休み

新講座 ペン字
美文字であいさつ状などを書いてみたいものです。一人一人の書きたい事に合わせて進めたいと思います。（資格修得可）
4月1日金スタート
第1③月曜 13:00~15:00
3ヵ月 10,692円/定員 18人

新講座 テーブルで楽しむ煎茶〜南宗茶華道
テーブルと椅子の立礼式でお手前をします。花を挿し、香を焚き、道具をしつらえ、季節を感じながら美味しいお茶を楽しみましょう。
4月12日金スタート
第2③金曜 13:00~15:00
3ヵ月 7,128円/定員 8人

新講座 よちよち歩きの英会話
中学英語の知識で楽しく英語を話してみよう。片言の英語でも自分の意思を述べながら質疑応答で対話していきます。
4月3日水スタート
第1③水曜 15:00~16:30
3ヵ月 10,692円/定員 15人

新講座 マネして身に付くイラスト
マネをすることで、絵の描き方を覚えていきます。イラストにするための「物の見方」や「想像力」を身に付けてと絵が上手になります。
4月18日木スタート
第3③木曜 15:30~17:30
3ヵ月 7,128円/定員 15人

1日 羊毛フェルトで作る鯉のぼり
針でチクチクさしこんで作る羊毛フェルトで「こいのぼり」を作ってみませんか。大人から子供（4〜7歳は保護者同伴）まで大丈夫。ふんわりカワイイ作品を作りましょう。ケース付き。
4月6日土 13:00~15:00
会員 2,160円 一般 2,700円
材料費 1,000円/定員 10人

1日 吊るして飾る多肉植物の寄せ植え
アイアンバスケットに数種類の多肉植物を寄せ植えしていきましょう。吊るして飾るのでお部屋のアクセントにもなりますよ。
4月14日土 10:30~12:30
会員 2,160円 一般 2,700円
材料費 2,000円/定員 10人

1日 ワイン・タンブラーに描くガラスリツェン
手彫りにチャレンジ!特徴的な形のワイン・タンブラーにインシヤルを彫ってみましょう。オリジナルタンブラーで大人気分を味わいませんか。
4月8日土 13:00~15:00
会員 2,160円 一般 2,700円
材料費 1,080円/定員 5人

1日 いまさら聞けない大人メイク〜ベースメイクを学ぼう〜
年齢とともに変化するお肌に応じて、ベースメイクの方法も変えていくことが必要です。クレンジングからファンデーションまで基礎をおさらいしてみませんか。
4月20日土 10:15~12:15
会員 2,160円 一般 2,700円/定員 10人

特別 ストレッチボールを使って「健康体操」(3回)
足裏を中心とした健康体操をストレッチボールで行っていきます。椅子に座ったままでもできる運動から全身ストレッチで、身体のコリをほぐしていきます。（1回ずつの受講可）
4月18日(木)、5月16日(木)
6月20日(木) 各日14:15~15:45
会員 各2,160円 一般 各2,700円
ボール代 2,160円/定員 各10人

特別 5キロを楽に走るランニング講座(全5回)
今より楽に走るためのフォームの見直しをしてみませんか。準備運動、体幹トレーニングなど分かりやすく説明します。初めての方も一緒に走っていきましょう。
4月27日(土)、5月11日(土)、5月25日(土)
6月8日(土)、6月22日(土)
各日14:15~15:45
会員 9,720円 一般 12,420円/定員 12人